

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	16H06363	研究期間	平成28(2016)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題名	歴史的建造物のオーセンティシティと耐震性確保のための保存再生技術の開発	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	青木 孝義 (名古屋市立大学・大学院芸術工 学研究科・教授)

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる	
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる	
A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である	
○	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、「歴史的建造物のオーセンティシティ」とは何かを明らかにし、その「オーセンティシティ」を確保しつつ、現代水準の耐震性を確保するための保存再生技術を開発することを目的としている。

本研究の保存再生に関わる個別の技術開発に関しては、歴史的建造物に限らず広く一般の構造物の維持再生に応用できる汎用技術と考えられ、順調な研究成果を上げており、研究成果の公表も順調に行われている。

しかしながら、「歴史的建造物のオーセンティシティ」とは何かを明確化するために行われるべき、過去の調査・修復の事例に関するデータベースは構築されたが、その整理と課題抽出や明確化に関する検討結果、さらには研究成果の発表に関しては、十分な研究の進捗を確認することができない。これらの分析、整理は本研究の方向付けを行うもので、最も肝要と考えられるものであるが、未だ方法論の提示にとどまっており、当初目標に対する研究の遅れが認められる。

なお、保存再生に関わる個別の技術開発に関しても、多方面の専門家の研究成果を本研究に沿って、統合させる努力が必要である。

【令和3(2021)年度 検証結果】

検証結果	<p>当初目標に対し、概ね期待どおりの成果があったが、一部十分ではなかった。</p>
A-	<p>具体的には、非破壊・微破壊検査による建造物の劣化調査法など、個別の要素技術の開発は順調に進み、期待された成果が得られた。</p>
	<p>しかし、研究全体を束ねる「歴史的建造物のオーセンティシティ」を尊重した建造物の保存再生技術に関しては、研究成果は煉瓦造を中心としたものであり、当初の計画にあるRC造を含めた包括的な技術については必ずしも十分とは言えない。</p> <p>提案されたガイドラインについては、広く実務者に公開するとともに、今後の関連研究の推進のために、研究過程で収集した保存再生技術情報をデータベース化して開示することを望む。</p>